

五木ダムの概要

【目的】

五木村の宮園地区～竹の川地区を洪水被害から守ることを目的とする治水専用ダム

【施設諸元】

- ・型式 : 重力式コンクリートダム(流水型)
- ・総貯水容量 : 3,500,000 m³
- ・治水容量 : 3,200,000 m³
- ・堆砂容量 : 300,000 m³
- ・湛水面積 : 0.20 km²
- ・堤高 : 61.0 m
- ・堤頂長 : 132.0 m
- ・堤体積 : 119,000 m³

【位置図】



【事業費・工期】

- ・事業費 : 233億円(点検後)
(残事業費) : 87億円
- ・工期 : 平成26年度

【事業経緯】

- 昭和43年 実施計画調査着手
- 昭和44年 建設事業着手
- 昭和56年 補償基準妥結

【進捗率】

執行済 :
未執行 :

①用地取得 (30.3 ha)	99.7% (30.2ha)
②家屋移転 (5戸)	100% (5戸)
③工事用道路 (7.86 km)	100% (7.86km)
④付替道路 (2.18 km)	71% (1.54 km) 29% (トンネル 0.64 km)
⑤ダム本体	0%

(平成23年3月末時点)

【流域図】



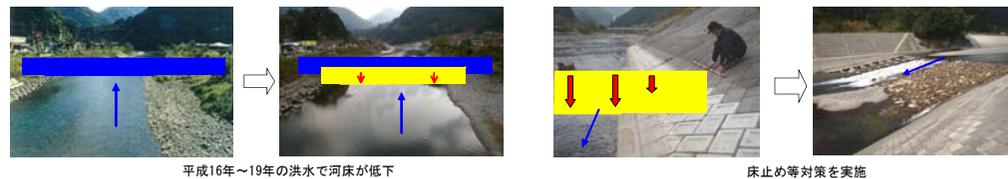
●目的の達成状況

【目標とする治水安全性】

- 球磨川水系河川整備基本方針 ➡ 平成19年5月策定
- 球磨川水系河川整備計画 ➡ 今後策定予定
- ・現在、球磨川水系全体の治水のあり方を「ダムによらない治水を検討する場」において検討しており、戦後の主要洪水を対象に治水効果の検証を行なっている。
- ・流域の検討状況を勘案し、検証にあたっては水系全体で戦後最大規模のS40.7洪水を検証対象洪水として設定し、目標流量を1,220m³/s(五木宮園地点)とした。

【河道状況の変化】

- ・平成16～19年までの4年連続の出水により護岸や堰などが流出し、五木ダムの予定地の下流部では、大規模な河床低下が発生。
- ・道路や護岸の復旧とともに床止め等の河床安定化対策を実施した結果、低下傾向にあった河床が概ね安定化。



平成16年～19年の洪水で河床が低下

床止め等対策を実施

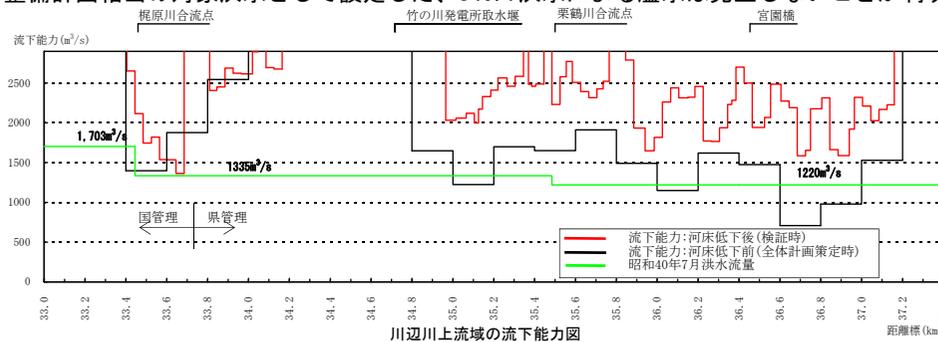
【河床上昇の可能性】

- ・宮園～竹の川地区の上流域における砂防対策等の進展
- ・過去の河床高の変動状況を確認するとともに、将来の河床高の変動予測を実施

治水上支障となる河床上昇の可能性は低く、今後も河床管理を実施

【流下能力が向上】

河床低下後の流下能力を検証した結果、宮園～竹の川地区では流下能力が向上し、河川整備計画相当の対象洪水として設定した、S40.7洪水による溢水は発生しないことが判明。



●県の対応方針

- ・宮園～竹の川地区では流下能力が大きく向上し、河川整備計画相当として県が設定した昭和40年7月洪水による溢水は発生しないため、ダムや河道改修等の治水対策を急いで行なう必要性はない。このため、本事業を中止するものとする。
- ・なお、河床低下による橋梁・護岸等の保護のための対策は、必要に応じ実施していく。
- ・また、河川整備基本方針に位置付けられた計画規模の洪水に対しては、治水対策が必要であり、上下流バランスを考慮し下流の整備状況に合わせ検討していく。